



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会  
 〒621-8585  
 京都府亀岡市篠町篠野田1-1  
 TEL 0771-25-7313  
 FAX 0771-25-7312  
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

## 病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

## CONTENTS

ごあいさつ	1
一般内科診療内容の紹介	2・3
外来看護部門の紹介	4
栄養科より	4
市立病院に質問 漢方薬について	5
改革プランの進捗状況について	5
トピックス	6
NST公開勉強会開催のご報告他	
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
しらかわ医院・吉村医院	
編集後記	8
アクセスマップ	8



### ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、恙なく辛卯の年をお迎えのことと存じます。あわせまして、この1年のご健康の維持増進、限りない幸せを心からご祈念申し上げます。

亀岡市立病院は、南丹医療圏に不足する医療提供の補完を目的として、「亀岡市域で安心して完結した医療を受けられる公立病院を！」という市民の切実な強い要望により、約10年近く医療の専門家や学識経験者の方々による研究会、市民による100人委員会や「あるべき公的医療機関」シンポジウムなどで沢山のご意見をいただき、H16年6月開院いたしました。以来、地域医療機関と連携して地域に求められる救急医療、高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院理念の1つに掲げ、また、市内医療機関と連携し相互の機能分担を図ることで、一貫した診療行為が継続できる、市民にとって無くてはならない病院であり続けることに努めております。

病院職員一同、医療レベルの向上には真摯な努力を重ねながら、今年が開院7年を経過し8年目に入ることとなります。

お蔭様で約9割のご利用者様から満足やお褒めの意見をいただき、有難いことでございますが、これに甘んじることなく、一人一人の患者様、1つ1つの診療を大切に、より良い取組方策に汗し、市民の皆様や関係機関の皆様のお力とご協力をいただき、信頼され信託される病院づくりに今後とも職員一丸となって邁進して参ります。

辛卯は、新たな産声と草木がお生い茂る状態を表すとも仄聞します。共により良い年を熱望します。

今年もよろしく願いいたします。



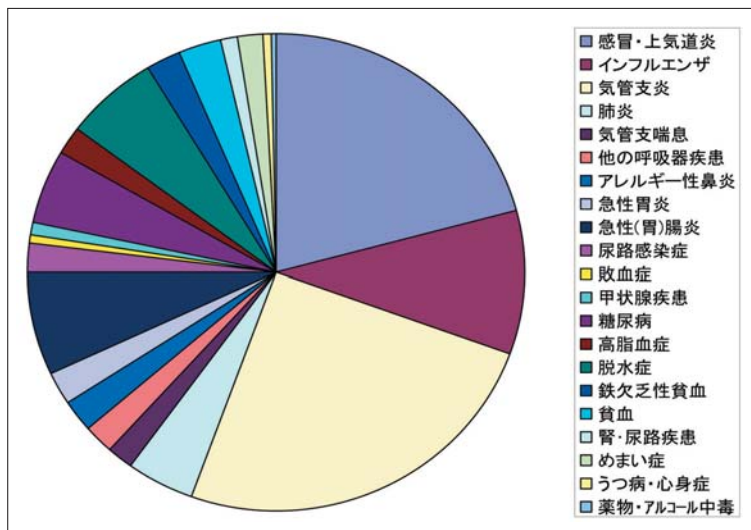
亀岡市病院事業管理者 坂井 茂子

## 一般内科診療内容の紹介

一般内科は、病院の窓口の役割を担う診療部門と考えられます。地域の皆様方に近い距離感で“かぜ”など日常的な病気から、入院治療の必要な病気まで幅広く診療しております。当科では呼吸器、感染症、内分泌、代謝、腎臓、アレルギー、膠原病、血液といった多くの疾患群の診療をしています。消化器・循環器・神経の各疾患群は原則として院内の専門科と連携してその診療にあたります。また、人間ドックの診断や説明を担当しています。図1に平成21年の当科外来での疾患別診療内訳を示します。呼吸器感染症が全体の半数以上を占めますが、この傾向は開院以来続いています。次いで胃腸炎、脱水症、糖尿病が比較的高頻度です。

外来は常勤医1名と非常勤医4名が日替わりで担当しております。新加入の筆者の他、臨床経験豊かな白川医師と宮崎医師（消化器専門）、新進気鋭の古谷医師（肝臓専門）と志村医師（血液専門）らが診療にあたります。また白川医師を中心に人間ドックで皆様の健康管理をしています。地味ではありますが、基本的な診療科として亀岡の医療に尽くせるよう日々研鑽しております。何か気になる症状がございましたらお早めに受診ください。

図1



### 筆者自己紹介

平成22年10月1日より当院内科に常勤医として勤務しています。出身は地元亀岡市で、亀岡高校出身です。亀岡市民が長年待ち望んでいた公的病院に勤務させていただき、感慨深い思いとともに自ら気合を入れ直しているところです。専門分野は血液内科という比較的マイナーな分野です。京都府立医大を卒業後は大学病院、大津市民病院、舞鶴赤十字病院などで、25年以上一貫して血液の病気を主体に診療・研究してきました。ここでは少し血液内科の概略を説明したいと思います。

内科部長 西垣 光



### 血液の病気とは？

血液疾患はおおまかに①血球系の数的異常、②凝固・止血系の異常、③造血器の腫瘍に分類されます。①は白血球・赤血球・血小板という3要素

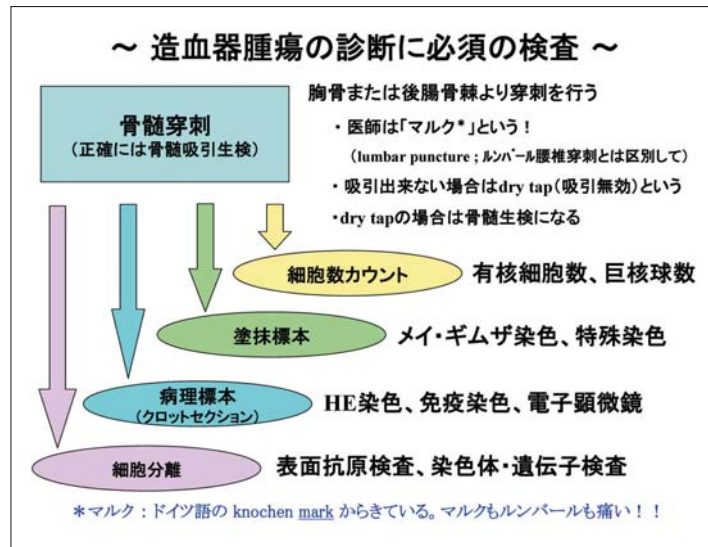
のいずれかの過不足が、②は血液を固める凝固因子や血小板の数的または質的異常が病気の本態である非腫瘍性疾患です。遺伝的に発症するものもあります。

③は骨髄やリンパ系臓器に発生する腫瘍性疾患です。急性および慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などが分類されます。疾患自体の発生数はそれ程多くはありません。ですがこれらは細胞の老化や環境変異原への暴露とも関係しており、高齢化社会を迎えた昨今では患者数が増加しつつあります。

## 造血系の検査とは？

血液の元は全身の骨の中にある“骨髄”という“臓器”にあります。ここで多能性幹細胞が分化して3系統の血球を作る“造血”をしています。その骨髄の未分化な細胞の遺伝子DNAに傷がつくと、やがて造血器腫瘍が発生します。腫瘍細胞は骨髄やリンパ系臓器に発生しそこで増殖を繰り返すことから、骨髄やリンパ節の病理検査が重要になります。血液内科では骨髄穿刺術や生検術により細胞形態だけでなく染色体・遺伝子・表面形質の情報を得て腫瘍の細分類を行います（図2）。この過程は知識と経験が必要で、治療法選択や予後に大きく係わります。

図2



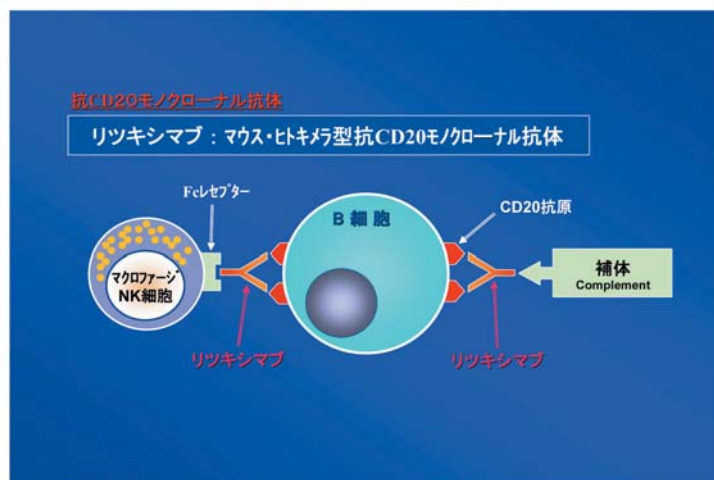
## 化学療法と分子標的療法について

1995年に白血病にレチノイン酸という分化誘導因子が登場して以来、多くの「分子標的治療薬」の開発および臨床応用が進みました。腫瘍細胞のみを攻撃したり兵糧攻めにするので、正常組織にあまり悪影響を与えずに効力を発揮します。例えば悪性リンパ腫では、腫瘍細胞がCD20という表面抗原を持つ場合、リツキシマブという人工的に作成されたCD20に対する抗体を点滴投与するだけで、腫瘍細胞を見つけて一気に攻撃することができます（図3）。特に高齢の患者様において、リツキシマブ併用療法により従来の治療と比べて

明らかに治癒率が向上しました。また慢性骨髄性白血病ではイマチニブという薬を服用するだけで、骨髄移植術を凌駕する生存期間と良好なQOLを得ています。

現在当院では、クリニカルパスを用いた短期治療入院、また感染防止のために白血球数を目安にした清潔度設定など、患者様のQOL保持と安全な分子標的・化学療法の実施を期しております。余談ですが、免疫力の低下した血液疾患の患者様を安全に診療していくには、実は“施設自体の清潔さ”が大前提になります。例えば古びた病棟の鳥のフンだらけのベランダや使い古されたエアコンに汚れた換気ダクトなどなど・・・これらは院内呼吸器感染の原因となるので論外です。本院は開院7年目を迎えたばかりで、施設全体が新しく清潔感に溢れております。血液内科の患者様にも安全な診療を受けていただけると自負していますので、ぜひ宜しくお願いいたします。

図3



## 外来看護部門の紹介

外来診療部門は、内科・消化器科・循環器科・神経内科・小児科・外科・整形外科・麻酔科・皮膚科・泌尿器科・眼科・放射線科・リハビリテーション科です。1日に外来をご利用される患者様は約300名で、体調不良や何らかの健康上の不安を抱えている方や、開業医の先生からのご紹介の方が来院されています。糖尿病教室の開催をはじめ、外来がん化学療法、救急室等で看護職員が活躍しています。

外来では看護師だけでなく、看護助手や医療事務員、検査部門の技師等さまざまな職員が働いておりますが、外来を利用される患者様に親切で心のこもった対応を心掛けています。不安に思われることなどありましたら近くにおります職員に遠慮なく声をお掛け下さい。

(看護部副看護部長 林 圭子)



## 栄養科より



### 旬のお鍋

日本人に不足しがちな栄養素、カルシウム。骨がスカスカになって、寝たきりにつながる骨粗鬆症の予防を考えると若い頃からしっかりと摂りたいものですがカルシウムだけをせっせと摂ってもなかなかうまく吸収されません。ビタミンD+イソフラボンを摂ることと、適度な運動を行うことで、カルシウムの吸収・沈着が良くなることが知られています。

カルシウムを摂るには乳製品がお勧めですが、吸収率が下るとはいえ野菜類にも含まれています。冬定番の鍋料理にカルシウムの豊富な小松菜とイソフ

## 美味しい！ 簡単！ 健康レシピの紹介

ラボンを含む豆腐を組み合わせるみてはどうでしょう。ビタミンDは干椎茸などに多く含まれていますが、日光に当たると皮膚で合成されますので、食後の散歩でも補えます。

また、ちょっとものたりないと思われる方は、普段の材料にこれらを足して召しあがって頂いても良いと思います。

材料：1人前

小松菜 …1/4束 (50g)  
はくさい…1/8株 (150g)  
豆腐 …1/4丁  
しいたけ…2個  
しらたき…適量  
だし …適量

(栄養科主任栄養士 森 美香)

# 漢方薬について Q&A

## 市立病院に質問



亀岡市立病院で、漢方薬を希望すれば、処方してもらえるのでしょうか。

(Hさん)

漢方は西洋医学とは全く診断方法が違います。たとえば西洋医学では病気の原因を病理学、解剖学といった学問に基づきウイルスが原因とか遺伝子に原因があるとか突き止めて疾患を直す方法を考えますが、漢方では体のバランスのくずれに疾患原因があるとし、そのバランスが熱証であれば冷やす、寒証ならば温める、虚証であれば足し、実証ならば引くといったぐあいになります。その診断の体系は中国4千年の歴史の中から陰陽五行説などの宗教概念や長い年月の間に発展した経験則に基づく独特な知識を必要とするものでこのような診断を下して漢方薬を調合することは専門の漢方医にしかできません。しかしながら一部の汎用される漢方処方調剤は調剤済みで大手製薬会社から販売されており、これらの漢方薬の中にはいろいろな西洋医学概念の疾患に

対して臨床試験がなされて有効性が証明されているものもあります。そのような場合には健康保険も効きます。これらについては亀岡市立病院でもたくさん使用されています。たとえば腸閉塞にたいする大建中湯や便秘に対する大黄甘草湯、アレルギーにたいする小青竜湯などです。私個人が処方する分だけでも常時10種類以上の漢方薬を処方しています。

ただし漢方は副作用が少ないと思っている方がおられますが必ずしもそうとは限りません。例えばインターフェロンと小柴胡湯の併用で重篤な間質性肺炎が起きた例があります。他院や漢方薬局で処方を受ける場合もまずは担当医にご相談ください。

(回答者 外科部長 田中 宏樹)



## 改革プランに職員一丸となって取り組んでいます

近年、多くの公立病院の経営は厳しい状況にあり、総務省は公立病院を設置する地方公共団体に対し、「公立病院改革ガイドライン」を踏まえて平成20年度中に「公立病院改革プラン」を策定し、病院事業経営の改革に取り組むよう要請しました。

これを受けて、市立病院においては、亀岡市民の病院として、地域に必要な医療機能を確保するとともに、経営健全化に向けた収支改善の取り組みなどの着実な推進により、良質な医療を安定的かつ継続的に提供していくことを目的に、平成21年3月に「亀岡市立病院改革プラン」を策定し、公表しました。

この改革プランは、平成21年度から23年度の3年間を計画期間として、各年度に経営に係る数値目標（経営指標）を設定して経営効率化に取り組み、

23年度に収支の均衡を達成し、安定した経営基盤の確立を図ることを目標としています。

改革プラン1年目の21年度会計決算では、新型インフルエンザの大流行や医療スタッフの確保など医療機関を取り巻く環境が一層厳しさを増している状況ではありましたが、目標を上回る収益を確保することができた結果、単年度経常赤字が当初予想の9,800万円に対し7,600万円となり、2,200万円減少させることができ、改革プラン初年度としましては、おおむね順調なスタートとなりました。

今後とも改革プランの推進に職員一丸となって取り組んでいきますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

(平成21年度の決算状況等は、ホームページに掲載しています。)

## NST公開勉強会

当院NST（栄養サポートチーム）は、内科・外科の医師と、コメディカルスタッフで構成されています。各職種がそれぞれの知識と技能を持ち寄り、栄養障害を持つ患者様に適した栄養療法を主治医に提案する事で、治療の効果を高め、患者様自身のQOLをも高める事を目的として活動しています。この活動の一環として、栄養管理を行う上での知識の向上を目的に、年1回、院外から講師をお呼びして、当院職員以外の方も参加可能な公開勉強会を開催しています。

今回は昨年11月30日に京都市上京区でNST活動の一端を担う歯科医として活躍されています水野歯科医院院長 水野昭彦先生に『歯科医からみた摂食機能障害～口腔機能の基礎とケア～』について講演をしていただきました。



70名を超える参加者からは、口腔ケアは身近な問題でありながら、これまで専門家から話を聞く機会がなく興味深い内容であったこと、直ぐに実践できる内容であったのでとても役立つといった意見が聞かれました。

今後も日々の活動を通じて患者様の栄養管理に資するとともに、地域に対しても情報を発信できるNSTを目指して頑張りたいと思っています。

## 第7回クリスマス会を開催しました



昨年の12月17日（金）に当院外来フロアにて7回目のクリスマス会を開催しました。当院のクリスマス会は、普段お越しいただいている患者様と、普段の診療の時にはできないような交流を行い、信頼関係を深めたいとの思いから、平成16年の開院から、毎年開催させて頂いております。今年も病院スタッフ全員の協力で、手作りのクリスマス会をとということで、看護師によるハンドベル演奏、劇、ダンスをはじめ、各技師によるバルーンアート作成、ゲーム、ホルン演奏、院内各科の医師によって結成された“ドクターズ”によるコーラスなど、患者様と楽しいひと時を過ごしました。次回開催の折には、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

## 病院職員紹介



看護部 看護師  
大道 恵子

### 旅はいかがですか

飛行機の窓から外を見ると海が見え、やがて広大な景色が…

『又、この土地へ来ることが出来た』一気に喜びがあふれてきます。

旅行と写真撮影が好きな私は、少し休みがもらえて『何処か行こうかな…』と考えたら30年来の友人が住んでいることもあり、迷わず北海道に行きます。

過去数十回行っていますが、澄んだ空気と開

放感をあじわうことが出来、何度訪れても飽きることはありません。山道を走っていると北きつね・蝦夷鹿が迎えてくれます。釧路に冬訪れた時は丹頂鶴が頭上を飛んで行きました。

息を凝らしカメラのシャッターを切り動物の一瞬の可愛い表情が撮影出来た時は本当に嬉しいですね。この文章を書いていると何だか又行きたくて来ました。

次も元気で上陸出来る様に日々健康に気を付け自己管理し頑張っていきたいと考えています。皆様も気分転換に旅はいかがですか…。



十勝にて

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本誌において、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

## しらかわ医院

院長：白川 和夫

住 所：亀岡市河原林町河原尻高野垣内59-1  
Tel：23-9011  
標榜科目：内科、消化器内科  
診療時間：午前9:30～12:30 午後5:30～7:30  
火・金・土曜日の午後および水・日曜日・祝日休診

### 院長より一言

昨年の5月、旧河原林町診療所を受け継ぐ形で「しらかわ医院（内科・消化器内科）」を開設しました。開設するにあたっては、平田先生はじめ、自治会、市役所の方々大変お世話になりました。また、開設後も医師会の先生方、多くの病院の皆様にご助けていただき大変感謝しています。

私の診療は、大学病院で始まり、消化器専門病院、急性期病院、老人保健施設と多彩でした。しかし、これからは勤務医と異なった世界を体験することになります。

私の内視鏡歴は42年ですが、昭和44年に初めて撮影した「胃カメラ」が今でも一番良い作品となっております。何も考えずに撮影できたのが良かったので、以後、「ひたすら一生懸命に」を心得にしております。

現在、市立病院において週1日の内科外来とドック健診、日曜日の内科日直を担当しています。病院と医院の診療感覚の違いに気づき、両者を使い分けるのに苦労しています。

また、在宅医療においても、主役はいったい誰なのかと迷うことの多いこの頃です。

私の医院のある川東地区は、地理的な影響もあって南丹病院との繋がりが多かったように思います。これからは、市立病院との繋がりが大切に行かなければと考えております。

皆さんのお力をいただいて、川東地区の医療に貢献いたします所存ですのでよろしく御指導の程お願い申し上げます。



## 吉村医院

院長：吉村 元昭

住 所：亀岡市篠町柏原町頭18  
Tel：24-0123  
標榜科目：内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、呼吸器科、アレルギー科  
診療時間：午前9:30～12:00、午後4:30～7:30  
木・土曜日の午後および日祝日休診

### 院長より一言

昭和59年3月1日に、篠町柏原に医院を開業して、早いもので26年が過ぎました。

開院当初から総合診療医を目指してまいりましたので、来院される患者さんは、可能な限り、全て診察し治療するのを基本方針としています。また患者さんとの連絡を密にする為に、以前より、夜間連絡の電話番号を診察券に印刷し、夜間の患者さんの訴えに対応するようにしています。そして平成8年8月4日から平成18年8月27日まで10年間は日曜診療も行いました。その間、種々の病気を診察する機会を得て、貴重な体験をしましたが、60歳を超えて体力的な限界を感じ、現在は、日曜日は休診日にしています。

開業当初は、当院で手に負えない患者さんを紹介できる、周辺の基幹病院の整備が十分ではありませんでしたが、この数年の間に安心してすぐに紹介できる病院が次々に完成し、診療所と総合病院の役割分担が比較的スムーズに行われるようになったと感じています。

亀岡市立病院には、距離的にも近いことから、開院当初から各種検査の依頼や、紹介患者の診察や入院で大変お世話になっております。これからも、時々無理なお願いをすることがあるかも知れませんが、よろしく申し上げます。



皆さま、明けましておめでとうございます。また、当院広報誌「桔梗」をご愛読頂き、誠にありがとうございます。さて、今回は、この広報誌の企画・編集を行っている裏方、広報委員会のメンバーを皆さまに紹介します。委員長として各委員の意見を十分に聞き、その意見がまとまらない時には、ビシッ！と物事を決定する決断力を持つ田中外科部長。物静かながらも、アイデア満載で脱線しそうな委員会を適正な方向にリードする堅実性を持つ八木放射線技術科長。常に楽しく興味深い誌面を！と、毎回斬新な企画を提案する委員会一の柔らかい頭を持つ原主任臨床検査技師。将来的には、ホームページなどの構成企画にも参画し、より皆さまに親しまれる広報活動を行いたいという情熱を持つ原野看護師。事務局として、各原稿執筆者等との調整にあたり、印刷間際まで原稿集めに奔走する筆者岡田。以上のメンバー各々の持ち味を活かし、今後も楽しく、親しみやすい誌面づくりに励んでいきたいと思っておりますので、末永く当院広報誌「桔梗」をご愛読頂きますようお願い申し上げます。

広報委員会事務局 岡田 康宏（病院総務課）

### 広報委員会からのお知らせ

本誌「桔梗」の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等をご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 広報委員会事務局(担当 岡田)



JR馬堀駅から徒歩約5分／京都縦貫道篠インターから車で約5分／駐車(輪)場有

## 亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1  
 TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312  
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>